令和2年

２月１２日（水）

（通算３５６回）

旧東海道三河国をあるく

御油の松並木と赤坂宿

参加者	13名	歩数	11000歩

下り坂の天気で明け方から曇り空であったが、「雨雲の接近は夜」との予報どおりで、国府駅を出る10時頃には青空が広がり気温も上がり始める。旧東海道に入ると所々に旧家が目に留まり、しばらく歩くと「大社神社」のクスノキの大木が見え、更に進むと御油の追分。そして音羽川にかかる「ごゆばし」を渡ると御油宿に入り、まもなく高札場跡に着く。この周辺は江戸時代は栄えた場所とのことだが、今は住宅地となり問屋場跡の立て札も撤去されたようだ。「御油の松並木資料館」で御油宿の復元模型や広重の浮世絵版画を見た後、宿場の繋盛のかげで働いた飯盛女たちの墓がある「東林寺」に立ち寄り、御油の松並木へ11時頃到着。汗ばむ程に暖かくなり、並木横の公園で小休止の後、松並木を通り抜けしばらく歩くと赤坂宿の東見付跡(出入する者を見張る場所）に着く。御油宿と赤坂宿の間隔は東海道の宿場の中で最も短く、わずか16町（約1.7Km）で、関川神社にある芭蕉の句碑『夏の月御油より出でて赤坂や』は、どちらも短い両者の関係を詠んだものであるとされる。境内には樹齢800年のクスノキの巨木がそびえている。5分程歩いて「長福寺」に着く。境内に推定樹齢300年のヤマザクラがあり、古木が歴史を感じさせてくれる。さらに進み旅籠「大橋屋（江戸時代の屋号は伊右工門鯉屋）」へ11時40分到着。ボランティアガイドの案内で館内を見学。建物の沿革や構造、赤坂宿の歴史などの説明をいただく。特に「飯盛女」について力説され「御油や赤坂、吉田がなけりゃなんのよしみで江戸通い」と言われた当時の活気を感じさせられた。その後、近くの休憩施設「よらまいかん」で昼食の後、集合写真を撮る。午後は隣接する「赤坂宿場資料室」見学の後、西見付跡近くの「杉森八幡社」境内にそびえる樹齢1,000年を越える古木「夫婦楠」と、直径7mにもなる皿回し式の「赤坂の舞台」を見学。来た道を戻り、赤坂宿本陣跡立札を見た後、石造りの観音様が有名な「浄泉寺」を拝観。10分程歩き名電赤坂駅近くの喫茶店で歓談し１４時頃解散する。